



ジネンジョの湿害軽減対策技術及び養分吸収に基づく施肥技術を開発

—ジネンジョの安定生産を目指して—

開発の背景・ニーズ

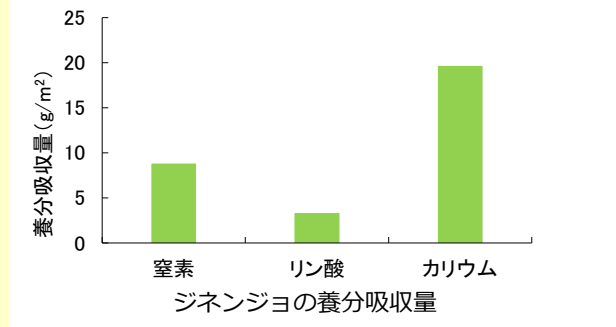
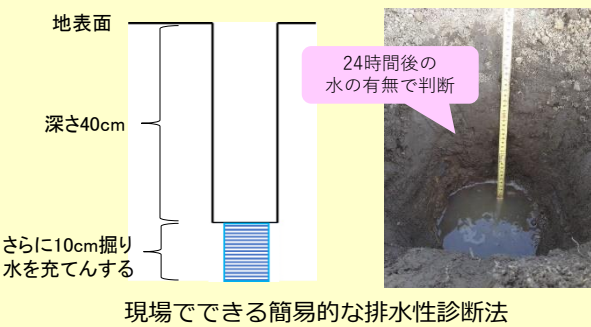
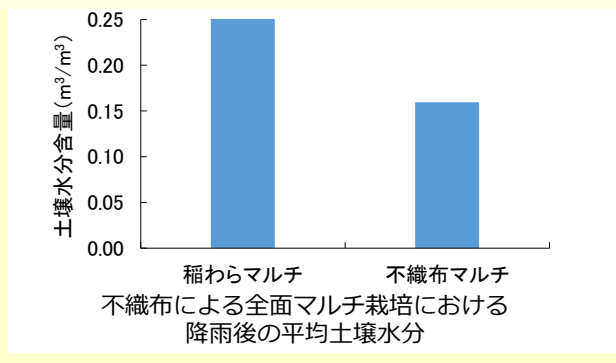
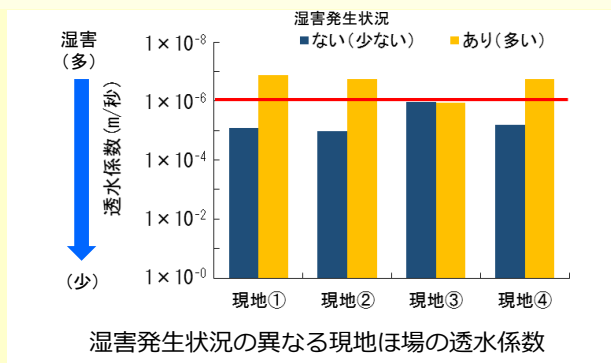
ジネンジョは、県内10haで栽培されており、高い収益性から栽培に取り組む新規就農者が増えています。栽培においては、湿害により芋の奇形、腐敗等が発生しやすいため、排水性が良いほ場の選定と湿害対策が急務です。また、安定生産を続けるため、現在主流となっているマルチ栽培における施肥管理技術が求められています。

成果の内容

○現地調査を行った結果、土壌の透水係数が 1×10^{-6} m/秒を基準として、湿害発生の可能性を診断できることを明らかにしました。

- ・その結果を基に、湿害発生が回避できるほ場を選定する際に特別な器具を使わず、現場で簡易的に排水性を診断する方法を開発しました。
- ・湿害発生の可能性があるほ場では、雨水を通さず通気性の良い不織布による全面マルチ栽培が湿害の原因である降雨後の土壌水分の上昇を抑えることを明らかにしました。

○マルチ栽培条件下における養分吸収特性を解明し、これまでより大幅に施肥量が削減できることを明らかにしました。



愛知県農業への貢献

開発した技術等をマニュアルにまとめ普及することにより、栽培経験の浅い生産者でもジネンジョを安定生産することができます。中山間地域を始めとした地域の新規就農者の増加を促し、その経営安定を通じて地域の振興に寄与します。